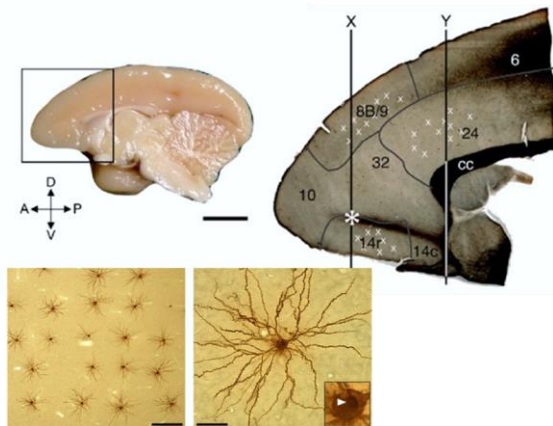


小児科月曜集談会

自閉症様モデル霊長類の大脳皮質 シナプス再編成の異常

筑波大学 医学医療系 生命医科学域 解剖学・神経科学研究
助教 佐々木 哲也 先生

10月1日（月） 18時～ フラテ会館大研修室



ヒトの脳では、出生直後から児童期にかけてシナプスが急速に増えた後、大人になるにつれて減っていきます。自閉症スペクトラム障害(ASD)の脳では、シナプスの「刈り込み」がうまくいかず、余分な神経回路が残っているためにスムーズな情報伝達が妨げられていると考えられています。これまでASDの研究にはげっ歯類が主に用いられてきましたが、げっ歯類では明確なシナプス「刈り込み」が観察されません。私たちは、小型霊長類であるマーモセットを使ってASDの神経回路の異常に迫ろうとしています。本研究では、胎生期にバルブ口酸に暴露することによりASD様の行動を示す霊長類モデルを作出し、その大脳皮質でシナプスの「刈り込み」が不十分であることを見出しました。ヒト自閉症脳の特徴を反映したモデル霊長類を使って研究することで、ASDの新しい治療法の開発に貢献できると期待しています。

お問合せ： 小児科 内線5954